

第 3 專 門 技 術 群

(物質・材料系)

平成26年度第3専門技術群（物質・材料系）研修報告

1. 目的

大学における教室系技術職員の職務の多様性に鑑み、各教室系技術職員に対し、資質の向上と応用能力の開発を図ることを目的とする。

今回の研修において、午前中には、技術職員の評価制度の変更が検討されている現状について、総合技術部より説明を行う。午後には、他大学技術職員との交流を目的として、京都工芸繊維大学の技術職員と技術や職務についての情報交換を行う。京都工芸繊維大学嵯峨キャンパスにおいて、カイコの飼育に関する講義及びショウジョウバエ遺伝資源センターに関する講義を受ける。また、養蚕施設、国内最大のショウジョウバエ遺伝資源センター及び生物資源フィールド科学教育研究センターの見学も行う。

今回の研修で、他大学の技術職員の業務を知り、他大学の技術職員と交流ができる機会を提供する。

2. 開催日 平成26年8月22日（金）

3. 開催場所 午前：吉田南2号館1階 理系総合実習室 午後：京都工芸繊維大学嵯峨キャンパス

4. 日程

<プログラム>

9:40～10:10	受付（吉田南2号館1階 理系総合実習室前）
10:10～10:15	開会挨拶
10:15～11:30	「教室系技術職員評価体制等検討小委員会」の説明、質疑応答 高橋総括技術長
11:30～12:30	昼食・昼休み
12:40	京都大学正門前バス乗り場に集合
12:50～13:30	バスで移動
13:30～13:45	休憩
13:45～14:00	挨拶・自己紹介
14:00～14:30	講義 「カイコの無菌人工飼料飼育について」 京都工芸繊維大学高度技術支援センター技術専門職員 藤野竜大

14:30～15:00	講義 「ショウジョウバエ遺伝資源センターにおける技術職員の役割」 京都工芸繊維大学高度技術支援センター技術職員 大迫隆史
15:00～15:15	休憩
15:15～16:15	施設見学 ショウジョウバエ遺伝資源センター 育蚕施設 生物資源フィールド科学教育研究センター
16:15～17:05	交流会（質疑応答、意見交換等）
17:05～17:15	閉会挨拶
17:20	バス乗り場に集合
17:30～18:30	バスで移動（京大本部前に到着後、懇親会場へ）
18:30～20:30	懇親会（任意参加）

5. 研修概要

研修は、午前の部と午後の部に分けて午前の部のみ午後の部のみの参加も可能とした。午前中の研修内容は広く技術職員全体が興味を持つ内容であることを考慮して、半日のみの参加を認めることにした結果、午前の部の参加者は27名、午後の部の参加者は24名であった。

午前の部は、教室系技術職員評価体制等検討小委員会に於いて教室系技術職員の評価体制の変更が決定したことを受け、小委員会の委員であり技術職員側委員の取り纏め役を務めておられる高橋秀典総括技術長から「教室系技術職員評価体制等検討小委員会」について説明をしていただいた。評価体制を変更することに至った経緯についての説明を受けた。技術部のある部局とない部局で今後の評価体制に違いが現れることについての説明もあった。説明終了後には質疑応答があった。

午後の部は、京大本部前から借り上げバスにて京都工芸繊維大学嵯峨キャンパスに移動して研修を行った。

同キャンパス内の学道会館に入り、研修の応援スタッフとして参加いただいた京都工芸繊維大学高度技術支援センター所属の8名の技術職員の方々と挨拶を交わし双方の全員が自己紹介をした。

嵯峨キャンパス内の養蚕施設に勤務されている藤野竜大技術専門職員から「カイコの無菌人工飼料飼育について」の講義、続いて嵯峨キャンパス内のショウジョウバエ遺伝資源センターに勤務されている大迫隆史技術職員から「ショウジョウバエ遺伝資源センターにおける技術職員の役割」の講義を受けた。

その後、ショウジョウバエ遺伝資源センターの見学をした。多くの系統のショウジョウバエが飼育されていた。次に育蚕施設の見学をした。そこでは全員が順番に飼育されているカイコの幼虫に

餌であるクワの葉を与え、カイコの幼虫がクワの葉を食べる様子を観察した。次に生物資源フィールド科学教育研究センターの農場見学をした。多くの種類の桑の木が栽培されているところを見学した。

学道会館に戻り、京都大学の技術職員と京都工芸繊維大学の技術職員との交流会として、意見交換、質疑応答を行った。その中でお互いの技術職員組織について説明を行った。それぞれの大学の技術職員組織の違いを知ることができた。

閉会挨拶終了後解散となり、待機していた借り上げバスで京大本部前に戻り、その後行われた任意参加の懇親会には京都大学から18名京都工芸繊維大学から6名が参加した。

今回の研修で、午後の部は物質・材料系とは異なる生物系の分野の施設見学となったが、他大学の技術職員との交流ができた。また、普段知る機会のない異分野の施設及びその施設における技術職員の職務を知ることができた。第3専門技術群所属の者にとっては普段の仕事とは異なる分野ではあったが、どれも大変興味深い内容であった。京大からの受講者の中にも他群所属の技術職員がおり、この研修を通して異分野の技術職員との交流を図ることもできた。この研修で得られた知見や経験、また技術職員どうしのつながりは、今後の業務や将来の技術職員組織の在り方を考えるうえで役立つと思われる。

最後に、研修の午前の部で「教室系技術職員評価体制等検討小委員会」について受講者に対して分かりやすく説明をしていただいた高橋総括技術長に御礼申し上げます。

また、午後の部の研修の実施にあたり、施設見学を受け入れていただいた京都工芸繊維大学生物資源フィールド科学教育研究センター長、同ショウジョウバエ遺伝資源センター長、同高度技術支援センター長、施設見学や講義のプログラムを企画していただいた河野充也氏を始めとして、応援スタッフとして研修に参加していただき、講義やプログラムの実施にご協力いただきました京都工芸繊維大学高度技術支援センター所属の技術職員の皆様に深く感謝申し上げます。

平成26年度 第3専門技術群 世話人名簿

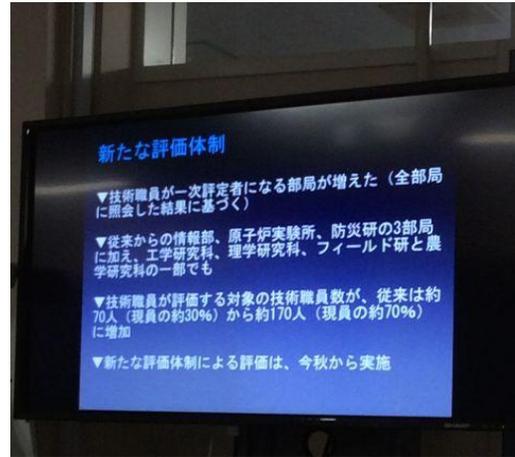
群 長	大嶺 恭子	化学研究所
副 群 長	阿部 邦美	理学研究科
世 話 人	原田 治幸	工学研究科
	平野 敏子	化学研究所
	堀部 正吉	人間・環境学研究科
	本田 由治	環境安全保健機構
	馬渡 秀夫	理学研究科

研修の様子（ 午前の部：吉田南2号館1階 理系総合実習室 ）

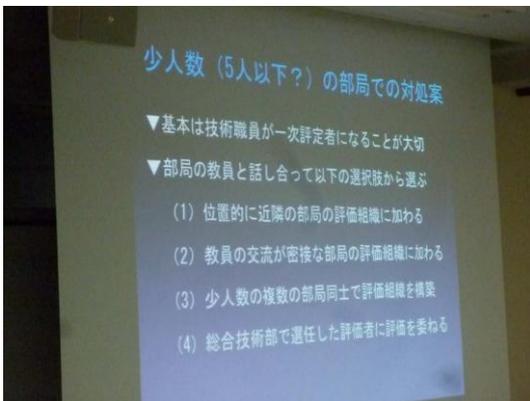
◆ 高橋総括技術長による「教室系技術職員評価体制等検討小委員会」の説明と質疑応答



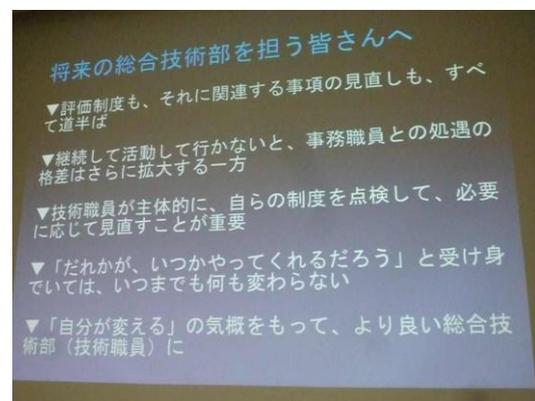
説明をする高橋総括技術長



説明スライド（1）



説明スライド（2）



説明スライド（3）



質疑応答の様子

研修の様子（ 午後の部：京都工芸繊維大学嵯峨キャンパス ）

◆ 京都工芸繊維大学技術職員による講義



「カイコの無菌人工飼料飼育について」

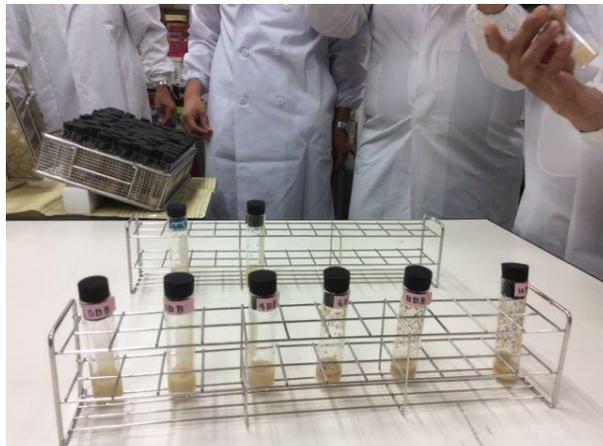


「ショウジョウバエ遺伝資源センターにおける技術職員の役割」

◆ ショウジョウバエ遺伝資源センターの見学



ショウジョウバエの飼育室



ショウジョウバエ飼育容器の経時変化（卵からハエになる様子）



顕微鏡によるショウジョウバエの観察

◆ 育蚕施設での実習



カイコの幼虫に餌を与える様子



カイコの幼虫とクワの葉についての説明



クワの葉を食べるカイコの幼虫

◆ 生物資源フィールド科学教育研究センター農場の見学



農場見学の様子



農場の桑畑



センター屋上デッキでの記念撮影

京都大学技術職員研修(第3専門技術群:物質・材料系) 受講者名簿

	機関	所属	氏名	フリガナ	所属専門技術群	専門分野	備考
1	京都大学	理学研究科	今村 隆一	イマムラ リウイチ	第2専門技術群	電気電子	午前のみ
2	京都大学	理学研究科	阿部 邦美	アベ くにみ	第3専門技術群	生物化学	*第3専門技術群世話人
3	京都大学	理学研究科	高谷 真樹	タカヤ マサキ	第3専門技術群	薄片技術	
4	京都大学	理学研究科 附属地球熱学研究施設	馬渡 秀夫	マワタリ ヒデオ	第3専門技術群	化学、情報、 計測、機械	*第3専門技術群世話人
5	京都大学	理学研究科 附属地球熱学研究施設	三島 壮智	ミシマ タクシ	第3専門技術群	化学	
6	京都大学	工学研究科	原田 治幸	ハラダ ハリユキ	第3専門技術群	機器分析	*第3専門技術群世話人
7	京都大学	工学研究科	鹿住 健司	カズミケンジ	第3専門技術群	材料	
8	京都大学	工学研究科	園林 豊	ソノバヤシユカ	第3専門技術群	表面分析 化学	午前のみ
9	京都大学	工学研究科	植田 義人	ウエダ ヨシト	第3専門技術群	化学 学生実験	
10	京都大学	工学研究科	名村 和平	ナムラ カスヘイ	第3専門技術群	化学工学	
11	京都大学	工学研究科 附属桂インテックセンター	西崎 修司	ニシザキ シュウジ	第1専門技術群	低温技術・機械	
12	京都大学	工学研究科 附属環境安全衛生センター	服部 俊昭	ハツリトシアキ	第3専門技術群	化学	
13	京都大学	工学研究科 附属環境安全衛生センター	宮嶋 直樹	ミヤジマ ナオキ	第3専門技術群	物理	
14	京都大学	工学研究科 附属環境安全衛生センター	日名田 良一	ヒナタ リョウイチ	第3専門技術群	化学(化学工学) 安全衛生	
15	京都大学	農学研究科	南部 優子	ナンブ ユウコ	第3専門技術群	化学	午前のみ
16	京都大学	農学研究科	吉岡 哲平	ヨシオカ テツヘイ	第3専門技術群	化学	
17	京都大学	人間・環境学研究科	吉田 あゆみ	ヨシダ アユミ	第3専門技術群	化学	
18	京都大学	人間・環境学研究科	下野 智史	シモノ サトシ	第3専門技術群	有機化学	
19	京都大学	人間・環境学研究科	堀部 正吉	ホリベ マサヨシ	第3専門技術群	無機化学	*第3専門技術群世話人
20	京都大学	化学研究所	岡田 真一	オカダ シンイチ	第3専門技術群	物理化学	
21	京都大学	化学研究所	大嶺 恭子	オオミネ キョウコ	第3専門技術群	化学	*第3専門技術群世話人
22	京都大学	化学研究所	平野 敏子	ヒラノトシコ	第3専門技術群	化学	*第3専門技術群世話人
23	京都大学	化学研究所	藤橋 明子	フジハシ アキコ	第3専門技術群	化学 質量分析	
24	京都大学	ウイルス研究所 附属感染症モデル研究センター	宮地 均	ミヤチ ヒトシ	第4専門技術群	生物	
25	京都大学	iPS細胞研究所	田中 彰人	タナカ アキト	第4専門技術群	生物	
26	京都大学	フィールド科学教育研究センター	佐藤 修一	サトウ シュウイチ	第4専門技術群	林学	
27	京都大学	フィールド科学教育研究センター	境 慎二郎	サイカイ シンジロウ	第4専門技術群	林学	

スタッフとして参加していただいた京都工芸繊維大学高度技術支援センターの方々（敬称略）
浦添 利治、大迫 隆史、小川 奈津美、尾崎 誠、河野 充也、島 龍夫、島袋 順二、藤野 竜大